

# 令和5年度 八幡西中学校研究構想図

## 【学校の教育目標】

### 健康で心の豊かな生徒

主体的に学び、行動する生徒      感謝の心とつながりを大切にする生徒      たくましく生きる生徒

## 【本校における学習課題】

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得ができていない生徒はいるが、それを思考力・判断力・表現力へと結び付けるところまでは至っていない。
- 問題発見・解決するための思考力や、結論を決定する判断力はあるが、伝える相手や状況に応じた表現力が弱い。
- 課題解決に向け、粘り強く取り組むことはできるが、自らの学習状況を把握し、学習の進め方を試行錯誤する力が弱い。

## 【目指す生徒の姿】

- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、日常生活の様々な場面で活用できる知識・技能として体系化しながら身に付ける生徒。
- 課題解決に向け仲間と協働し、異なる考え方を組み合わせ、よりよく表現する生徒。
- 見通しをもち粘り強く取り組み、自分の学習状況を的確に把握し、学習方法や学習内容を自ら調整し学習を深め広げる生徒。

## 【研究の流れ】

昨年度は、「よりよい学びを追究し、学びの実感を仲間と共有する生徒の育成 ～主体的・対話的で深い学びを通して～」を研修主題に掲げ実践を進めた。指導計画の作成や学習活動の工夫、ICTの効果的な活用等を図ることで、生徒自身がよりよい学び（主体的・対話的で深い学び）を追究できるようにし、それにより、達成感や満足感などの学びの実感をもたせることができるような指導を行うことを重点とした。研究実践を通し、指導の個別化や学習の個性化を図ることと合わせて、意図を明確にした交流（対話的な学び）や教師からの深めの発問（深い学び）の手立てを講じることで、生徒が自己の学びを調整する姿（主体的な学び）につなげることができた。

## 【研究主題】

深い理解に基づく豊かな表現によって、学びを実感する生徒の育成  
～主体的・対話的で深い学びを通して～

## 【研究仮説】

単位時間の役割を明確にした指導計画を作成したり、学習過程において、主体的・対話的で深い学びを促したりすることで、生徒は、学習内容を深く理解して豊かに表現することができ、自他の考えを認め合うことで、学びを実感することができる。

研究内容1 指導計画の工夫	研究内容2 学習過程の工夫	研究内容3 終末の工夫
(1) 興味や関心をもたせる単元のねらいや単元導入の工夫 (2) ねらい・評価規準と関連付けた、重視する「考えるための技法」の設定	(1) 深い学びを生み出す学習課題の設定 (2) 個別最適な学びを生み出すための工夫 (3) 自己の考えを広げ深めるための交流方法の工夫	(1) 学びを表現する場の設定と表現内容の具体化 (2) 明確な評価規準に基づく自己評価・相互評価